

令和3年度 やよい幼稚園・保育園自己点検・評価 総括

1. 学園理念

学園理念「心をこめて 心をつくして 心を伝える」に基づき、かけがえのない一人ひとりの心に寄り添い、個性を大切にす
る教育を目指している。

2. 教育目標

「心も体も健康で たくましく伸びゆく子ども」を目標に、一人ひとりの子どもの心に寄り添い、個性に応じた援助をしな
がら、生活習慣や社会性を身につけるとともに、子どもの可能性、創造性を伸長する教育を目指している。また、乳幼児期にふ
さわしい生活が展開されるように、教師との信頼関係にささえられた生活、友達と充分にかかわって展開する生活、さまざまに
直接的な体験ができる生活を大切にしている。

3. 本年度の自己評価

I 園の基本姿勢について

全般的に学園理念・園の運営、教育方針に基づいて教育が行われている。また、園児一人ひとりの発達にあわせて指導、援助
している。また、年度の終盤にコロナウイルス感染があり対応に迫られたが、クラスターを防ぐことができた。

II 幼保連携型認定こども園教育・保育要領の理解について

幼保連携型認定こども園の教育・保育要領に基づいて教育・保育の計画を立て、子どもの発達の連続性や一人ひとりの園児の
状況に考慮して教育・保育を行っている。また、年齢に応じた発達を確保しつつ、安全に配慮しながら、異年齢との交流を図る
とともに、必要に応じて関係機関との連携を図っている。

保健計画、安全計画、食育計画を作成し、指導に位置付けるとともに、緊急時には組織として対応できるように緊急時マニ
ュアルを作成している。

保護者へ説明などを通して相互理解を深めるように努めてきた。しかし、本年はコロナウイルス感染症予防のために、保護者
の園への入室や行事への参加を制限したり、中止したりしたため、十分に子どもの育ちを伝えられなかった部分もあると思われ
る。また、地域支援についても、感染症に留意しなければならず、限定的に行わざるを得なかった。

幼保連携型認定こども園として運営して7年経過しており、認定こども園としての役割の理解を深めている保育教諭がいる一
方新人保育教諭の入職もありばらつきが感じられる。今後この両者の溝を埋めるための工夫も必要であると感じられる。

III 園独自の取り組みについて

園の特色教育について理解するとともに、園独自の事業についても理解している。また、本年度はコロナウイルス感染症のため、研修は中止されることも多く、参加は限定的であった。

IV 人事管理について

法規に則り、適切に対応している

V 安全管理について

園児や施設・設備に関する安全対策、また、衛生に対する安全管理も適切に行われている。

本年度は特にコロナウイルス感染症の予防のため、子どもの衛生指導、机、おもちゃなど生活管理についても力を入れて行っ
た。今後も安全対策、安全管理を適切に行い、感染症への対策を行うとともに、事故を未然に防ぐことができるように、引き続
き管理していくことが必要である。

VI 財務管理について

法規に則り、適切に処理されている。

4. 総合評価

- 概ね学園理念や園の運営、教育・保育方針を理解し園の教育・保育要領に基づいて教育・保育計画を作成し実践している。
- 園児一人ひとりの状況や発達に合わせて教育・保育を行うとともに、必要に応じて関係機関と連携を図った。また、令和3年
度の終盤は園内でコロナウイルス感染症の発症があった。その都度、盛岡保健所及び盛岡市の子育てあんしん課と密接に連絡
を取りながら対応した。今後も、感染予防と拡大防止のためにできる限りの対応をして、安全確保に努めたい。
- 感染症拡大に伴って、行事を中止したり、延期したり、縮小したりせざるを得なかった。そのため、保護者に子どもの様子を見
ていただけるよう一部の行事（参観・懇談）はYouTubeの発信を試みた。今後もコロナウイルス感染症が続くと思
われるので、工夫しながら保護者に子どもたちの成長を伝えられるようにしていきたい。
- 教職員の研修については、ほとんどが中止になった。リモート参加できるものについては積極的に参加を促した。

5. 保護者アンケート結果

- 本園の教育・保育方針、教育・保育内容について、全般的に理解を得られている様子が伺える。
- 令和3年度はコロナウイルス感染症の予防から、保護者が入室する機会を少なくするとともに、行事への参加にも制限を
かけざるを得なかった。しかし、「運動会」「やよいまつり」「生活発表会」は、入場制限等しながら実施し、子どもの大き
な成長を感じられる機会とした。また、年長児には感染に充分配慮しながら「お泊り会」「収穫感謝祭」を実施した。年長児
の保護者からはコロナ禍でも子どもの経験を深める機会を提供したことに対して感謝の言葉が多数寄せられた。
- コロナ禍の中でも、子どもの園での様子が見たいという保護者の要望が多い。本年は新たな試みとしてYouTubeを活用してみ
たが、テレビの大画面を使って家族全員で見られてよかったという感想も聞かれた。今後も個人情報管理を徹底しながら、
子どもの成長の姿を伝えていく工夫が必要であると思われる。

6. 今後の課題

- 幼保連携型認定こども園として、就学前教育・保育の一貫して行う教育機関として、共通認識を高め機能充実を図ること。
- 今後もコロナウイルス感染症は続くことが予想されるため、子どもや教職員の安全管理に一層努めること。
- 園の行事等が変更せざるを得ない状況があるため、今後、保護者との共通認識を図るために、様々な工夫が必要なこと。
- 幼児教育・保育の専門家として、また、教育者としての人格を高めるために、今後も研修や自己啓発に努めるこ
と。